

市長と議長の新春対談



▲市内の小学校児童を代表し、西小学校6年生による祭に対する決意表明がありました

つけました。

―12月2日の登録記念セレモニーについて。

市長 大変寒い日でしたが思い出に残る行事でした。これまでの先人がずっと守り継がれてきたものを、これから100年200年300年先まで続けていかなければなりません。私たちが今、この責任を負っています。

議長 市役所で出迎えている時、日枝神社と櫻山八幡宮の皆さまの行列が近づくにつれ、祭の音色がどんどん響いてきました。あの時の市長のあいさつで「あの月と星が輝く限り」とありましたが、本当に良く晴れた夜で一

層心に残る日になりました。

―西小学校の児童が市内小学生の代表として「伝統を受け継ぎ、先人の思いを伝えていきます」と宣言しました。屋台組をはじめ全市民的に祭や地域行事の担い手不足が課題ですが。

市長 無形文化遺産は人が伝えていくものです。人がいないとこの遺産は無くなります。人が伝えていかないと途絶えるものです。そこで今回の登録ですが、「世界が認めてくれた遺産」を私たちは有しているんだ、その土地に住んでいるんだ、その土地で育ってきたんだ、といった一人ひとりの自信や誇りを持つとともに、みんながその思いを共有していくことが大切です。思います。それと併せて、現実的にどんな人口が減少していく中で、担い手がなくて行事を継続できない時に、誰とどういった形で助け合っていくべきかということも考えていかなければなりません。屋台組の皆さん



まときちんと話し合っていかなければなりません。

議長 私の小さいころは父親に肩車してもらい祭屋台のからくりを見たものでした。屋台組以外の人にはそうして屋台を見ました。ですが最近、祭行事を残そうと思う人たちがご尽力で、屋台組以外の地域に住んでいる西小学校の児童が屋台に乗せてもらえるようになりました。

屋台に乗ったことで、先人が残した屋台という財産の重みを感じ、誇りに思ってきてもらうと、大きくなってもいろいろな形で故郷に帰ってきてくれると思います。

市長 そうですね。私はユネスコが「今回登録され



た皆さま、ちゃんと残していくことを講じていかないと、このままにしていると危ないですよ」と忠告してくれたとも思っています。責任をもって残していかなければなりません。そのためにも、「世界の皆さま、高山祭の屋台行事を残していくから安心して」という気概、心意気をアピールしていきたいです。もう一つは、この遺産の魅力を国内外に発信していくことで、地域の活性化に役立てていかなければなりません。誘客などを今年はきちんと講じていきたいです。

―今年の4月29日と30日の両日は、ユネスコ無形文化遺産の登録を祝して、春と秋の屋台が総曳き揃えされる行事も予定されています。

議長 めったにない夢の競演です。

市長 見逃すわけにはいきません。併せて多くの方に紹介していきたいです。